

平成 29 年度
第 2 回倉吉市地域産業振興戦略会議議事要旨

平成 30 年 2 月 5 日開催

産業環境部商工課

平成 30 年 2 月 5 日開催 平成 29 年度第 2 回倉吉市地域産業振興戦略会議議事要旨

1 開会

出席者：船越委員、文村委員、仲村委員、牧野（光）委員、中山委員、井上委員、
牧野（健）委員、大槻委員、小野委員、吉田委員、黒阪委員、福井委員
欠席者：北村委員、上野委員、柴田委員

2 市長あいさつ

有効求人倍率は 1.5 を超えるような状況がずっと続いており人手不足感が非常に強い。景気の良さが地方でも実感できるような形でいけばいいと思っているところ。設備投資などをみると倉吉でも投資の傾向は続いているように見受けられる。なんとか倉吉の経済がこれからもいい方向で回転していけるようにこの戦略会議でも政策が打ち出していければと思っている。

3 協議事項

(1) 地域産業振興ビジョンにかかる取組みについて—————（資料No.1、2）

【戦略 1】雇用の創出と確保について

東本商工課長、前田環境課長説明。

【戦略 2】農商工連携による 6 次産業化の推進について

内川農林課長、東本商工課長説明。

【戦略 3】雇用の創出と確保について

山根観光交流課長、東本商工課長説明。

(2) 意見交換

中山委員

【戦略 1】雇用の創出の確保について、高校生の雇用の方法がわからない。企業とのマッチング、就職フェアなどを行わないのか。

東本商工課長

就職フェアは市として単独では行っていない。ハローワークから高校卒業予定者の就職については従来毎年 6 月末までに求人を出してもらい、ハローワークから各高校へ紹介し、各高校から希望を出すという流れになる。

黒阪委員

高校生の雇用について雇い方がわからないというご意見は、ハローワークとして反省す

べきだが、高校生の雇用については一定のルールがあり、時期が決まっている。その中でフェアなどが簡単にはできないことがネックになっている。ただ、事業者説明会という形で企業の話聞いていただく機会は設けている。その中で地元の企業を知っていただくのが一番効果的かと思っている。参考までに、中部地区のここ3年高校生の就職は100%である。

東本商工課長

高校の新卒についてはハローワークを通してというルールがありますのでそこに則る必要があります。倉吉市としてはマッチングについては市では無料職業紹介所を開設している。使ってもらいたい。それと、市内の高校には、地元こういった事業所がありますというPRは今総合産業高校の授業の方で案内させていただいている。

黒阪委員

倉吉の高校の卒業生は、傾向として7~8割が県内就職している。

大槻委員

【戦略1】雇用の創出について。人手不足の原因となる人口流出について、手立てはないか。例えば移住に対して補助したり、人を連れてくる施策が必要だと思う。

東本商工課長

企業誘致も今はもう人もセットで誘致してこないといけない状況。現在の企業立地促進補助金の中で市内に住所を移していただく場合、1名につき補助が出ます。そういった取組をしております。

吉田委員

人口減少に歯止めをかけるには、企業誘致のある程度の実績は出ている。しかし、既存企業の支援が大事である。鳥取県内はよろず支援拠点の活動が活発。よろず支援拠点の認知度を高める働きかけを行政として行ってほしい。

東本商工課長

市のほうもよろずさんとは直接やりとりさせていただいており、ひとつには、よろず支援拠点とは協力して図書館ビジネス相談を行っている。相談件数も伸びている。金融機関とも連携した相談体制の確立をさせていただきたい。

船越委員

商工会議所に相談しようとしても、どう相談してよいかわからない。小さい商売をしているところには会議所はハードルが高い。何か方法を考えてほしい。

もう一点、移住者の方のお店とか商売は成り立っているのかが気になる。

井上委員

仕事しやすい環境作りというのも資金面のみならず重要な要素であると思う。移住者は地域に溶け込むことができるかどうか。商店街に加入してもらい、活動してもらえれば助け合いはできる。

東本商工課長

市の制度を使われたり経営支援、経営相談などで関わったりして把握ができていけばずっとサポートはしていける。

市内にNPO法人を立ち上げて移住者を支援している方もいる。また、東京から移住して来られて市の制度を使って空き店舗を活用してケーキ屋さんをされている。空き店舗などを活用されれば市で把握ができるし、自分たちで協力体制を作っているケースもある。

井上委員

【戦略3】観光について。岡山県北の対策をもう少し密にしてほしい。昔は岡山から倉吉に仕事に来られたり、学校に来られたり、遊びに来られて生活圏の一部だったように思うが、生活基盤が希薄になっている。

山根観光交流課長

犬狭道の駅では蒜山の産品を置いており、アンテナショップ的な役割をしている。蒜山は年間200万人の観光客がいる。広域観光(DMO)では岡山県北との協力でスタンプラリーやバスの周遊といった取り組みを展開している。蒜山と倉吉を巡回できる仕組みができなにか検討していきたい。

仲村委員

【戦略3】観光について。ひなビタイベントとはどういった取り組みか？

山根観光交流課長

直近では今年度は打吹まつりの中でイベントを行った。原作者の方や声優さんお呼びし多くのファンが集まった。そもそもスタートは平成28年の7月にひなビタ♪の舞台となる倉野川市と架空の都市と姉妹都市提携をした。そういった中で28年度には4月に未来中心で桜まつりということで声優さん原作者等呼んで1,000人以上の方にお出でいただいた。市内の各店舗さんをまわってちくわメニュー、ひなビタ♪の舞台となっている倉野川市の

名物がちくわで、そのちくわを扱った商品を各店舗開発してもらった。30 近い店舗にご協力いただきながら、人型パネルをおいたりスタンプラリー的に市内を周遊してもらえりような仕掛けをした。

仲村委員

記載で「滞在時間が2時間以下と短い」とあるが、対策をどう考えているのか。観光の範囲を広げるのか。

山根観光交流課長

4月にはフィギュアミュージアムなどができるので見ていただくところは増える。連携を強めていって周遊や街歩きをしてもらって地域にお金を落とさせていただくということで滞在時間を長くしていくことによって経済効果を出していく。成徳地区と明倫地区との空間をどういう風にしてつないでいくかというのも今後の課題。

仲村委員

PR方法について。知らないことが多い。お客が来るお店にパンフレットを置くなど新しいPR方法を考えてはどうか。自分の経営している美容室など置くことはできる。

牧野（光）委員

ひなびタ関連は相当外部に対して売り込むことができた。今後も観光の核としていきたい。

小野座長

PRについては、ホームページ、市報ではなかなか届かないという感じがしている。他に何か方法はあるだろうか？

牧野（光）委員

ホームページや市報では役に立たない。私どもマイス協会では何らかの形で関わった方にはメールアドレスを頂戴している。倉吉のイベントに関することをメール配信（DM）するのはどうか。

文村委員

メール配信については、興味のない人にとっては、メールが来ても開かず捨てるのであまり効果がないと思う。送るならもっと詳細に調べて、ピンポイントに欲しい人に対

して効率よく送るほうがよいと思う。

【戦略1】雇用について。職業訓練ではWORD、EXCELなど事務系の訓練を受ける人が多いのに対し、求人では事務系が伸びていない。ギャップを埋めることが必要ではないか。

【戦略2】6次産業化について。前回のこの会議では規格外品のものを使うのではなく、加工品用として農産物を作成できるような取り組みをしたほうがよいというような議論があったと思うがどうか。

福井委員

J Aは設備を持って、既に味噌やケチャップなど作成している事例はあるが、女性部だけだとどうしても自家用の範疇になってしまう。大きく事業をするならばスイカ、メロンなどは「生産部」があるので、そこと話を進めて行くほうがよいと思う。

内川農林課長

【戦略2】6次産業化について。農家の減少は人口減よりも顕著になっている。また、一次産品を加工する事業者がないということがあり、難しいところではあるが何とか頑張りたいと思っている。

文村委員

僕は今梨を作っているが、梨を果実で出すと1コンテナ大体6,000円くらい。台風で梨が落ち、J Aが加工用で出すというんで持っていくと1コンテナ500円くらい。農家にとって加工品に出すというのは全然儲からない意識がある。しかし実際儲かっている農家さんは加工品を出してすごく儲けている。賞味期限が長いから販売期間も長い期間はける。加工品が儲からないという仕組みを変えるためにもそういうところが変われば農家も加工品用にも物を出してくると思うので、仕組みが変わればそこに倉吉の農業の特色が出せていくと思うので、市役所の人に頑張ってもらいたい。

黒坂委員

【戦略1】雇用について。職業訓練と求人倍率の話があったが、職業訓練の事務系ソフト講習受講者が多いことと、事務系の職が求められていることとは必ずしもイコールではない。むしろ、事務職でない人にも事務系ソフトを使わなければ仕事にならない状況になってきているということである。

牧野（健）委員

ワイン特区について知りたい。雇用、観光など多くの面に関係することだろうと思うので。

事務局

倉吉市、北栄町、湯梨浜町共同で特区申請をした。特区として認定されると製造量が少なくても酒造免許が受けられるというもので、市内のワイン販売店が、今までは湯梨浜町や北栄町の畑で作ったブドウを岡山でワインにしていたが、この認定を受けて市内で製造することとなる。観光客への対応も考えておられる。

牧野（光）委員

【戦略3】観光についての提言。建設予定の県立美術館から歩いて行ける範囲にギャラリーを作られた場合、補助をするなどの制度を作ってほしい。倉吉市は韓国の羅州市と友好交流を続けてきているが、産業的に進展がない。美術館を核とした羅州市に関連した博物館なり物産館などを設置してほしい。

■今後の流れの確認

2月中ごろ——会議の意見を整理し各委員へ送付。その時さらにご意見があればいただく。

2月末——意見集約。

3月中——来年度取り組み方針決定。市HP等で公表。

閉会